

TICAD閣僚級準備会合における津軽三味線公演

平成25年7月
在エチオピア日本国大使館
広報文化班

平成25年3月16, 17日, 当地アディス・アベバにおいて, TICAD閣僚級準備会合が開催されました。同準備会合は, TICADV本番前最後の会合となる重要な会合です。そこで, 日本文化を紹介するサイドイベントを企画し, アフリカ各国から来る参加者の日本文化に対する関心と親日感情を高め, 日アフリカ友好関係及びTICAD全体を盛り上げよう!ということになり, 津軽三味線奏者の大野敬正さんに, 同会合のレセプションの場で三味線公演をしていただくことになりました。大野さんには, 3月15日のエチオピア政府主催レセプションと16日の共催者主催レセプションで公演いただき, さらに18日には, エチオピアで一番有名な音楽学校のヤレド音楽学校においてワークショップも開催することとなりました。

15日そして16日のレセプションでは, アフリカ各国の閣僚級をはじめとする参加者約700名が見守る中, 素晴らしい三味線演奏をしていただき, TICAD閣僚級準備会合そのものが更に盛り上がりました。それぞれのレセプション公演では, 大野さんの三味線とエチオピアの音楽・ダンスパフォーマンスとが数曲コラボし, 日エチオピア, 強いては日アフリカの良好な文化友好関係をアピールしました。大野さんの三味線と, エチオピア側パフォーマーとのコラボは大成功でした。レセプションなので, 参加者は懇談をすることがメインであることにも関わらず, ステージの前には人だかりができて, 多くの人が写メを撮ったり, 手拍子をしたりして三味線+バンドの演奏に魅せられていました。

三味線演奏者の大野敬正さんとそのバンドメンバーたちは, 素晴らしい演奏家でした。大野さんは, 初めてエチオピアの音楽家やダンサーとコラボするにも関わらず, 数時間のリハだけで, 彼らと美しいハーモニーを作り上げるという偉業を成し遂げていました。印象的だったのは, 大野さんが, エチオピアの音楽を聞いた途端, 「体にずっと入ってくるような, ふるさとのような音楽」と言っていたことです。エチオピア音楽と日本の伝統音楽は同じ五音階ということもあって, よく似ていると言われます。このため, 短いリハの時間であっても, エチオピア側の伝統楽器(マシンコ(一弦楽器), クラール(小型ハープのようなギターのような楽器), ワシント(フルートのような笛))とエチオピア・ダンサー(男女各7名, 計14名)と日本の三味線との間で, 絶妙なハーモニーを奏でることができたのだと思います。音楽は国境を越える, ということ, 身をもって実感できるコラボ公演となり, TICAD閣僚級準備会合中, 参加者が一呼吸をつけて, 「日本文化って素晴らしい」, 「アフリカとの連帯を音楽で表現していて素晴らしい」, と感じることでできる演奏になり, 日アフリカ友好関係を表した素晴らしい公演になったと思います。

また、18日午前中は、当地ヤレド音楽学校において、生徒たちとのワークショップを実施しました。1時間に亘るワークショップには、60名以上の音楽学校生が参加し、三味線について説明したり演奏したりして、大変盛況なワークショップとなりました。

公演は、主要メディアによって取材され、公演後すぐに、日曜日の一番視聴率の高い文化番組と言われている番組にトップニュースとして放送され、エチオピア全国への文化広報を行うこともできました。こうした報道を通じて、少しでもエチオピアの一般国民の間で三味線という日本文化が浸透することによって、日本のプレゼンス拡大につながることを期待しています。

TICAD閣僚級準備会合という、重要な大規模国際会議且つ対アフリカ外交にとって極めて大切な場であり、そういった場で、このような文化事業を行ったことは効果的だったと思います。特に、日本主導の国際会議を、日本以外の地で実施する際には、こうした文化事業を通じて、更に日本カラーを強めることができ、一気にマルチの関係者に文化広報することができたと思います。今後もこうしたサイドイベントにおいて、日本の文化事業を実施することは、大変意義があるのではないのでしょうか。

(写真)大野さんの三味線



エチオピア演奏家とダンサーたちとのコラボ



参加者の反応



(了)